

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道152号 小嵐バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	長野県
起終点	自：長野県飯田市南信濃梶谷 至：長野県飯田市南信濃小嵐	延長	2.4km		
事業概要	<p>一般国道152号は、長野県上田市を起点とし静岡県浜松市に至る延長約251kmの幹線道路である。小嵐バイパスは、小嵐地域の隘路及び幅員狭小区間の解消を目的とした飯田市小嵐の延長2.4kmの2車線道路である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>上田市と浜松市を結ぶ国道152号は、三遠南信自動車道に接続し、遠山谷と呼ばれるこの地域の生活道路であると同時に、飯伊地域から静岡県西部へ直結する唯一の幹線道路である。しかし、落石危険箇所も多く、幅員が狭小で、カーブが連続するため車両のすれ違いが困難な状況にある。</p>				
全体事業費	49億円	計画交通量	4,300台/日		
事業概要図	<p>Map showing the project route from Utsunomiya City (至) to Hamamatsu City (至). The route includes the existing National Route 152 and the proposed bypass. Key features include bridges (橋梁) and tunnels (トンネル) along the route. The map also indicates areas of landslides (崩壊地) and landslides to be prevented (地すべり防止区域). The project length is 2.43 km.</p>				

関係する地方公共団体等の意見
 平成18年11月 国道152号改良促進期成同盟会より早期改良の要望あり。
 平成18年6月 長野県南部国道連絡会より早期改良の要望あり。

事業採択の前提条件
 費用対便益：便益が費用を上回っている

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.70	総費用：49億円 （事業費：40億円 維持管理費：9億円）	総便益：84億円 （走行時間短縮便益：70億円 走行費用減少便益：14億円 交通事故減少便益：0億円）	基準年：平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)		
		事業費変動	B/C= (事業費 %)	B/C= (事業費 %)		
		事業期間変動	B/C= (事業期間 %)	B/C= (事業期間 %)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠		
		渋滞対策	-	【渋滞損失時間の改善】 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】 【渋滞度曲線】 【その他の特徴】 データは県内平均・全国平均と比較すること		
		事故対策	-	【死傷事故率】 (死傷事故率比（県内平均比）) (事故率曲線における位置：) 【その他の特徴】 データは県内平均・全国平均と比較すること		
	歩行空間	-				
	社会全体への影響	住民生活	県境域に生活する住民の重要な生活道路であり、その整備が強く望まれている。			
		地域経済	長野県と静岡県を結ぶ重要な幹線道路として、飯田下伊那地域、天龍村の観光・産業振興を支援する。			
災害		先線にある集落の避難路となり、災害時の孤立化を防ぐ。				
環境	構造物は極力避け緑化を図るとともに、周辺環境との調和を図る。					
地域社会	現在通行不能となっている県境区間を三遠南信自動車道県境トンネル整備と合わせ解消し、両県を跨いだ交流を活発化する。					
事業実施環境	県境を結ぶ三遠南信自動車道「青崩峠道路県境区間」が着手予定のため、実施に向けた地元の気運が高まっている。					

採択の理由

費用便益が1.7と、便益が費用を上回っており事業採択の前提条件が確認できる。
 また、県境を結ぶ三遠南信自動車道「青崩峠道路県境区間」が着手予定であり、連携して整備することにより地域連携の効果が大きいと判断できる。
 以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。